

児童発達支援ガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 5名回答、回答率 100%

保護者様： 2名回答、回答率 100%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・訓練室に室内カメラを設置し、定期的に振り返ることで支援の質の向上を図るとともに虐待防止・安全管理の徹底に取り組んでいる。
- ・スケジュール表、座席カード等の視覚支援を取り入れることで、見通しをもって安心して過ごすことができる環境づくりを意識している。

○業務改善

- ・ガイドライン自己評価表を基に、改善に向けての見直しを行うと共に、ホームページ、ブログ等で取り組みの周知を行っている。
- ・虐待防止研修、階層別研修、性教育研修、心理士ミーティング等、職員の支援の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。

○適切な支援の提供

- ・アセスメントシートを基に面談を行い児童発達支援計画を作成し、支援計画に沿った療育の提供を行い、日々療育記録にて振り返りを行っている。
- ・就学に向けて、個別療育では運筆、微細運動、SST等、個に応じた課題に取り組み、集団療育では小学生と一緒に活動を行うことで、環境に慣れ、就学後も継続した支援が行えるよう取り組んでいる。

○関係機関や保護者との連携

- ・就学時には、児童発達支援管理責任者が、進学先と関係機関支援会議をおこない、就学後も継続して統一した支援が行えるよう努めている。
- ・送迎時に時間の確保が難しい時には、電話連絡、家庭連携にて家庭訪問等を行い、幼稚園やご自宅での様子、保護者、児童の意向をお伺いし連携を図っている。

○保護者への説明責任等

- ・今年度は療育参観を行い、集団療育の様子や教室での取り組みを保護者に見ていただくことができた。
- ・連絡帳にはその日取り組んだ支援内容を個別療育・集団療育に分けて評価を行い記載。月ごとに支援内容を振り返り、月間レポートにて保護者へ報告を行っている。

○非常時等の対応

- ・月に1回、水害、地震、不審者対応、火事等、異なるテーマで避難訓練を実施している。
- ・初回ご利用時に服薬や予防接種、てんかん発作、食物アレルギー等の確認を書面にて必ず記載頂き、職員間で情報共有を行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・環境・職員の配置数や専門性について、回答者全員からよい評価をいただいた。

○適切な支援の提供

・児童発達支援計画に沿った支援が行われているか、活動プログラムが固定化されないよう工夫されているかの質問に回答者全員から「はい」と回答をいただくことができた。

○保護者への説明等

・運営規定、利用者負担等についての説明、子どもの発達状況や課題についての共通理解について回答者全員から良い評価をいただいた。「児童発達支援ガイドラインがよくわかっていない。どこで見れるのか教えていただけると有難いです」とのご意見もいただいた。

○非常時等の対応

・非常時の対応について「どちらともいえない」との回答もみられた。避難訓練は月1回実施しているが、ご利用日や時間帯の関係で参加できていない場合もあるため、個別療育でも災害時の対応について触れることができるようにする必要がある。

○満足度

・「初めての午後療育、幼稚園の行事の疲れ等から行き渋りがみられることがあります」との意見がみられたが、事業所の支援に満足しているかの質問には、回答者全員から「はい」の回答をいただくことができた。行き渋りがあった際にも、電話連絡、事業所内相談や家庭連携等で丁寧に支援を行った結果の評価だと考える。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・社内研修や教室内研修を通して職員1人1人の知識向上を図り、安全な教室づくりを行うとともに児童1人1人に合った支援を提供していく。
- ・同年代で交流の機会を増やしていくため、ブログ発信や地域のイベント参加を通し、児童発達支援の利用者数を増やしていく
- ・コロナ禍等においても保護者交流や情報発信ができる場を定期的に設け、開かれた事業所作りに取り組んでいく

○改善できた点・まだ残る課題

- ・社内研修、外部講師研修、階層別研修、虐待防止研修等に全職員が参加できた。
- ・日々の療育の様子を定期的にブログ・ニュースレターで発信することができた。見学時に「ブログで活動の様子を知れて良かったです」とのお話もいただいた。
- ・9月に療育参観を実施し、集団療育の様子を保護者様に見ていただくことができた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・個別療育、集団療育の両方を行っている。個別療育では、連絡帳や送迎時に日々の様子を細かく共有することができ、保護者の要望、児童の発達段階に応じたカリキュラムに取り組むことができている。
- ・視覚的なスケジュール表、ロッカーや座席カード、活動内容に応じたスペースの区切り等の環境整備を行っていることが、環境・体制整備の良い評価に繋がっている。

○改善点

- ・療育参観を実施することはできたが、年1回の開催であったため、下半期から新規でご利用いただいた方にはご案内ができていない。今後も定期的に行なえるようにする。
- ・集団療育は就学を見越して、小学生と一緒にやっている。年上のご利用者様とも安心して関わる事が出来るよう、支援体制を整える。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・保護者様やご利用者様が安心して楽しく過ごせる支援体制を整える。
- ・児童発達支援から放課後等デイサービスへ、就学後も慣れ親しんだ環境で継続してご利用していただける環境を維持する。
- ・保護者同士の交流の場や療育の様子を参観していただける機会を設ける。

○1年間で取り組む具体策

- ・小学生と一緒に安心して、集団療育やおやつに参加できるよう、児童の特性や発達段階に応じた支援の工夫や配慮を行っていく。
- ・幼稚園や保育園、進学先の小学校と関係機関連携を行うようにする。
- ・来年度以降も定期的に保護者会を開催、オンライン参加等も含めて保護者向けの研修のご案内を行い、保護者同士の交流の場や研修機会を設ける。